ド級編隊
エグゼロス
H×EROS
×2
きただりょうま
JUMP COMICS SQ.

H╳EROS Characters

H╳EROS　EROSをHネルギーに変え、キセイ蟲と戦うヒーローチーム。

HXEPINK	HXEYELLOW	HXERED
桃園百花（ももぞのももか）	**星乃雲母**（ほしのきらら）	**炎城烈人**（えんじょうれっと）
エグゼピンク	エグゼイエロー	エグゼレッド
何でもできる姉への対抗心から、ヒーローへの誘いを受けた。	幼い頃のトラウマで、エロに拒否反応を示す。烈人とまた一緒に居たいと思い、ヒーローに。	幼馴染の雲母を変えてしまったキセイ蟲が許せなくて、ヒーローになる。雲母の事が好き。

Story

地球はキセイ蟲による侵略を受け、かつてない危機に瀕していた。しかし、そんな敵と日夜戦い続ける少年少女の姿があった。彼らの名はH×EROS。そのメンバーである少年・烈人は、幼馴染の雲母と一緒に居たところ、キセイ蟲の襲撃に遭い、その戦いの中で雲母にもヒーローとしての素質がある事が判明する。かつてキセイ蟲に襲われ、Hネルギーを吸われた過去を持つ雲母はヒーローになる事を一度は拒むが、その時から疎遠になっていた烈人とまた一緒に居たいと思い、メンバーに加わるのだった!

庵野 丈

地球防衛隊サイタマ支部HERO課、課長。烈人の叔父。

キセイ蟲

人間のエロスの源"Hネルギー"を奪い、絶滅を目論む宇宙人。

HXEBLUE

天空寺 宙

エグゼブルー

時々、寝ぼけて烈人の布団に潜り込む天然系少女。

HXEWHITE

白雪舞姫

エグゼホワイト

いつも笑顔を絶やさない、大人しい女の子。

contents

第5話

夜は短し惚気よ乙女

時は この日の放課後に遡る
いや〜それにしてもま〜
まさか あの雲母が勝負下着が欲しいなんて相談してくるとはねー
もういいでしょ…！
学校からここまで散々笑ったんだから…
別に笑ったんじゃなくて嬉しかったんだよ
雲母がまたそういうことに興味持つようになって
だから別にそういう訳じゃないんだけど…

はいコレ選んどいたよ
ありがと……
でやっぱ相手は他校の人？
!?
うちのクラスの男子は皆まだガキだからねー
ちっ…違うって…！
じゃあ大学生とか—
まさか社会人じゃないでしょうね…!?
当たり前でしょ！
まそういうことにしといてあげよう

ッ!?
ほ…ホントにこれ…!?
勝負下着なんだから
キワどければキワどい程いいの!
だからって…
これはちょっと
キュッ♥
攻めすぎじゃ…
いいじゃんどうせ好きな人にしか見せないんだから
べ…別に私は好きな人に見せる訳じゃないし…!
その方がどうかと思うよ雲母…

ありがとうございました〜
そういえば夕奈
放課後デートとか言ってなかった？
結局違うのにした
あぁうん大丈夫
ちゃんと待ち合わせ場所はこの辺にしてもらったから
それにしても夕奈のデート相手って一体どんな人なんだろうね…
ひそひそ
確かに…
あっ先輩！
やっほー夕奈
！
たっ

私も丁度今来たとこです～
デレ
デレ
ゆ…夕奈らしいっちゃらしいな…
うん…
それじゃあ雲母っ！
頑張って♥
!?
行きましょう先輩っ♥！
さ
……
そういう陽香はどうなのよ？
!?
私はほら…部活優先だし…

現在――
一体何が起こってるんだ……!?
なんであの星乃が下着姿で俺の部屋に…
いや……これは絶対俺の夢…
きっと連日振り回されっぱなしの俺に脳からご褒美が――
………
…と……とりあえず横いい……?
あっはい
は!?
今なんで
言っとくけど…変な期待しないでよね…
コレは別にあんたのHネルギーの為じゃなくて…
私のHネルギーの為だから…

それにしても
その格好は…
!?
これは
その…

その方が
…溜まりがいい
からって…
桃園さん
が…
アイツ〜〜ッ

だからって…
絶対こっち
向かないでね
……!
わ…
わかってる
よ…!

どーーー

ドキン
どうして
こんなことに
――
ドキンッ
そういや
昔も
こうして星乃と
二人っきりで
寝たことが
あったっけ…

どんどん
パチッ
むくっ
いっけね…
宿題の途中なのに寝ちゃってた…
星乃の奴から誘ってきたのに自分も寝てるし…
ピコーン
いつも弄られてるお返しに
顔に落書きして笑ってやるぜ…！
そ〜っ

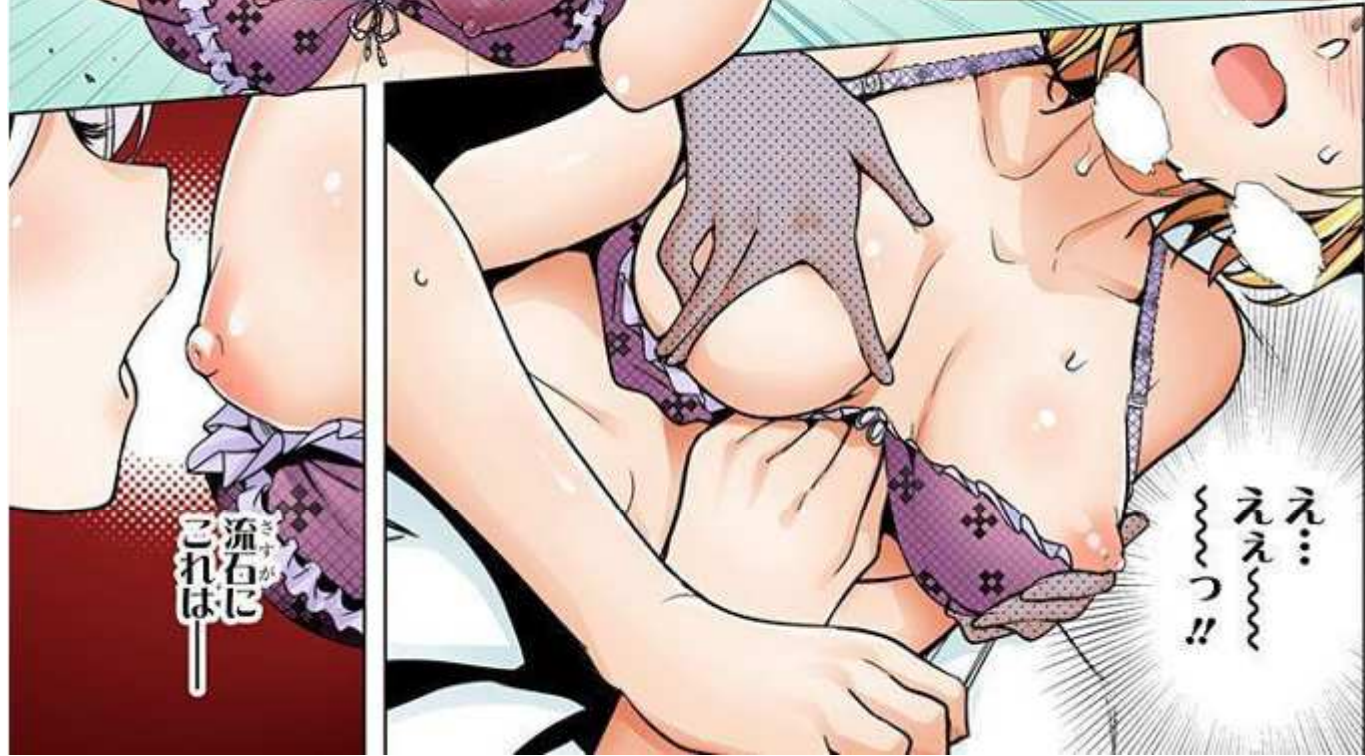
……
無防備だとこんな顔してるのか…
今までこんなマジマジ見たことなかったけどコイツ…
ゴクッ
ドクンッ
ドクンッ
ドクンッ

プッ
あっはっはっ！
おっかしー
なぁに？
れっくん
さっきから
固まって…
一体何を
しようとしてた
のかなぁ？
は…
はぁ!?
たっただ寝顔が
可笑しかったから
落書きしよーと
しただけだよ！
ふーん
それじゃ
いいよ…
…しても…

はい
ドーゾ
う…
ドキッ
うおおおっ!!
……
ごじゃごじゃ
あーもう
なんだか気が
済んだわ…!
それじゃ
おやすみっ!
ぽっ
ヘタレ

まさかこの状況で
あの黒歴史のことを
思い出すなんて…
あの頃は
なんとも
無かったけど…
私たちは
もう…
小学生じゃ
無い訳で…
すっ
えっ…
炎城…!?
むにっ

たっ…たたた
確かにこっち
向かないでって
言っただけで…
触らないで
とは言って
ないけど…
んッ…
他の部屋に
聞こえちゃう
し……！
まさか炎城が
こんなこと
するなんて…
Hネルギーの
為とはいえ…
…声は…我慢
しないと…
!?
え…
ええ〜〜
〜〜っ!!
流石に
これは──

!?
パク
ってい い加減調子に――
ぱッ
おなかいっぱい…
は？

むにゃ
むにゃ…
またお前か天空寺!!
あれ…?
二人共…宙の部屋で何してるの…?
そんなことより いつから そこに…!?
トイレから帰ってきてから ずっと寝てたよ…?
だからお前の部屋は向かいだって…!
ってことは最初から――!?

二人で何してたの？
わっ…私も自分の部屋と間違えちゃって…
あせっ
あせ
まままったく気をつけてくれよー（棒）
あははっそれじゃあ失礼しましたッ…
そそーっ
ほら天空寺…お前もさっさと自分の部屋に戻っとけ！
眠いからだっこしてって
よじっ
おいッ引っ付かないで自分で歩けっ!!
えー
ミシッ

…はぁ…
あれだけ覚悟して行ったのに
そもそもなんでもう先に他の女の子が部屋にいるのよ…！
結局中途半端な感じで終わっちゃった…
炎城の──
ポーン

バカ
ポスッ
ズッ

あ…
パラパラ

し〜ん
はっ!?
せっかく溜めたHネルギーも
買ったばかりの下着も無駄にしちゃった…
頑張って勇気出したのに〜〜〜〜っ!
キラーン
へたっ…
後日──
まさかあの強化防壁を貫くとは
やはり君の素質は素晴らしい!
全っ然嬉しくないんですけど…!

第6話
早乙女女学院の白雪姫

ギシィッ
キショショ…
ついに捕らえたぞ
エグゼホワイト
さあ
命が惜しくば
仲間の居場所を
吐きなさい
そんなの…
絶対に言い
ません…！
くッ…
ここはこんなに
柔らかいくせに
口だけは堅い
ようだな…
!?
ふに

お前のような身体の人間は存在自体がキセイ対象だからね…

じわぁ

もう二度と我々に逆らえないように

ビクビクビクッ

この触手で徹底的に懲らしめてやろう……――

んっ…！

ここまでですか…

星乃さん

炎城さん

百花ちゃん

宙ちゃん

ごめんなさい…

ヴヴヴ
ヴヴヴ
ん…
ヴヴヴヴッ
何してるの ルンバちゃん …？
ペロペロ
ペロペロ
べとーっ

シャッ
もうっ
ルンバちゃんの所為で変な夢見ちゃったじゃないですか…
ヴォオオオォォ
モフッ
ガラ
おはっすー
おっ…おはようございます
ちょっと顔洗わせてくれ
ずいっ
ドキッ
ピトッ
ひゃんッ♡
ガシャアン
!?

私の名前は白雪舞姫
どこにでもいるような普通の女子高校生
兼HEROです
まだドキドキしてます…
たっ
おっはよー舞姫っ!
ペチーン
ふあッ!?
オレンジってことは今日は火曜日か
人の下着をカレンダー代わりにしないでくださいっ!
ポカ
ポカ
誰かに見られたらどうするんですかー!!

私立早乙女女学院高等部
いいじゃんいいじゃん
もう学校の敷地の中なんだし
彼女は保谷千夜
おっはー
この早乙女女学院のプリンス的存在にして
私の幼馴染です
もうっ千夜ちゃんったら…
そういや今日はいつもの黒タイツは？
!?
今朝はちょっとドタバタしてて…っ！
書道室
ちなみになぜこうもドジで特技も長所もない私がHEROなんかになれたのかというと──

ふぅっ…

平常心

平常心…

ふうっ…こんなもんかな
はぁ〜…流石千夜様
何をやらせても達者ですぅ〜
どう？舞姫は
って
いつまですってんの…？
はっ！
大丈夫？
なんだか今日顔赤くない？
そっそうですか…？別になんともないですけど…
またまた強がっちゃってー！
もしかして足でも痺れてるとか？
つんっ

はぁあん……ッ♥
ぞくぞくっ
カァアアアアア
あ…ごめ…
しし
私達ヒーローチーム〝エグゼロス〟は人のEROSを感じる素質が力になるらしく
キーンコーンカーンコーン
だからなんの取り柄もない私がHEROを名乗れているんです…
やっぱり今朝の夢の所為でちょっとおかしいみたい…
今日は大人しくしてないと…
はーっ
どした？まだ着替えないの 舞姫
次の時間体育だぞ？
へ…？

お美しい…
やっぱスポーツ 学問 芸術 なんでも出来るわよね 千夜様は…
キャーッ
キャーッ
それに引き換え…

声小さいよー白雪さんー
すっすみません…っ
ガッ
あいたっ！
ドタッ
ててて…
ストップストップ！
大丈夫舞姫!?
は…はい…
なんであんな落ちこぼれといつも一緒にいるのかしら…
ヒソ
ヒソ

はーっ
気にするなって舞姫
いつかあんたにも得意なこと見つかるし
皆が知らないだけで長所だっていっぱいあるんだからさ
例えば…？
例えば…
仕草がいちいちエロいこととか
胸がでかいこととか…
安産体型なこととか…
なんか偏ってません…？

それか試しに色んな部活とか入れば良いんじゃない？
そうすれば新たな才能が見つかるかも
…いえ…いいんです…
私が入ると皆に迷惑かけちゃいますし
ずーん
どこまで謙遜するんだお前は…
ま私はその優しさ
嫌いじゃないけどな
それにっ…放課後はバイトで忙しいですから…
ほーん…
いい加減教えろよ そのバイトーっ
もみ もみ もみ もみっ
そっ それだけは絶対駄目ですっ!!

一方 その頃の
炎城烈人――
逃げてるだけで
全く反撃して
こないぞ…
キショ…
なんだ この
キセイ蟲…
ザッ
私を追い詰め
てるつもりで
しょうけどね
人間…
折角だから
そろそろ見せて
あげるわ…
ガッ
とっておきの
奥の触手を…
!?

ピンポンパンポーン
只今校内に不審者が侵入した模様です
全生徒は体育館に避難して下さい
繰り返します――
不審者だって…
怖ーい
!!
これは…キセイ蟲の反応…！
ということは…
不審者の正体はキセイ蟲…!?
なーんで不審者なんかに そこまでしなきゃいけないんだろうねー
やっぱり時代なんかねー
舞姫もそう思わない？

あれ・・・
舞姫・・・？
ざわ
ざわ
ザッ
キャーッ
キャーッ
なんだい ここは雌しか居ないじゃないか…
キセイし甲斐のない場所だね
ハラッ
いやあッ！
ダッ
ズル
ズル

ギュル!!
ギュルルッ
やっぱり現れましたねキセイ蟲…
私がここにいるからには…これ以上好きにはさせません!
星乃さんの最近、よく学校を襲うという話は本当だったんですね…
さっきの奴は触手応えが無くて退屈だったし
今回は少し触手加減して遊んでやろうかしらね
!?
それってどういう——

ひやあッ！
なんですかこれ…っ!?
あ…この感じ
今朝の夢と同じ──

って
駄目駄目ッ――
ブヂイッ!!
はぁっ!
!
とっ
とっ
痛っ
とんっ
どー
はぁっ…
はぁっ…
危ない所でした…
あやうく正夢になるかと…
ビチビチッ
く…
苦しいっ
!

その声はもしかして…
炎城さん!?

どうしてそんな姿に…
というか大丈夫ですか!?
あぁ…お陰で助かった…
俺も気が付いたらこんな姿になってたんだけどおそらく…

おそらく…この学校の生徒かも…
フフッその通り！
私の力はHネルギーを吸った人間を触手化する能力
こうして増やした触手でHネルギーを吸い取り
また新たな人間を触手化してゆく
これぞ名付けて人類総触手化計画!!!
な…なんて気の長い計画なんだ…
さあ　この触手の網をかいくぐって
私に攻撃出来るかしら…？

き…来たぞ
白雪ッ！
大丈夫…
要は
近づかなければ
いいんですよね？
！
それなら
私の得意分野
ですから
スッ
私に出来る
こと…
私にしか
出来ないこと…
今日の私なら
大丈夫…！
学校の皆は
私が守り
ますっ！
ばっ
スゥゥゥゥッ

ラマーズ砲〃

はぁん
イイイイ
ギュ
キョ…ッ…
や…
やった！
ボンッ
！
ギリギリ
馬鹿なあああああッ〜〜ッ…!!!

えええ炎城さんッ…!?
わっ悪い白雪っ!
んッ…
はっ

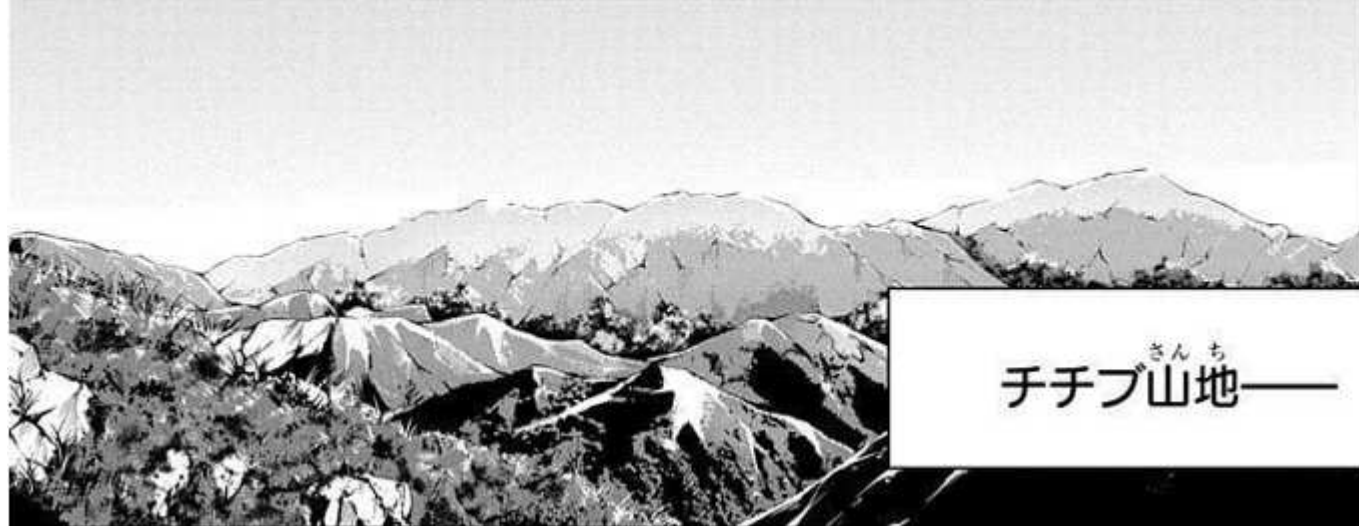
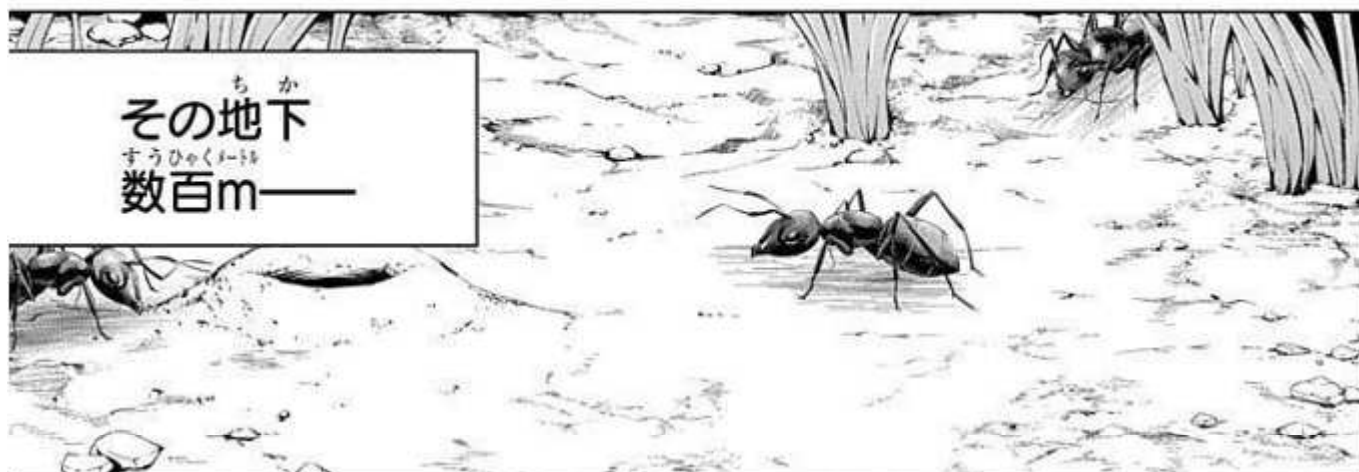
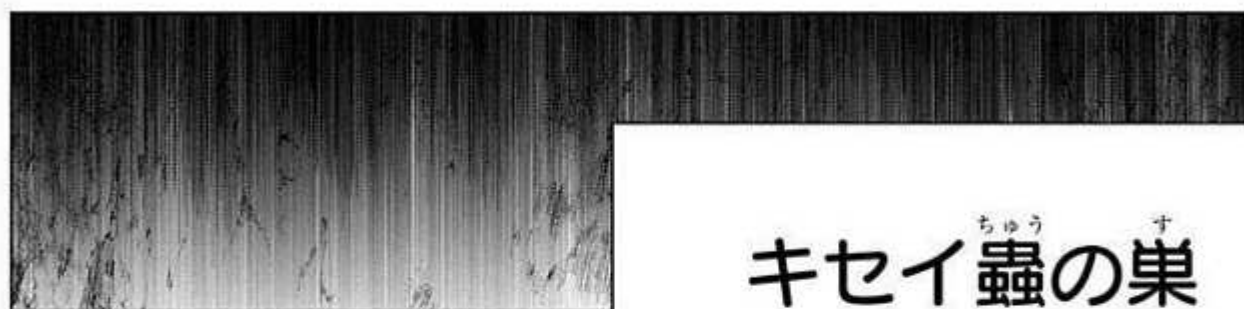
うぅん…
ててて…
!?
きゃああ！不審者〜
ぱっ
ガン
ガン
すいませんっしたー!!
大丈夫!?白雪さん
は…はい…大丈夫です
事情はよくわからないけど舞姫…
あんたもやっと見つけたみたいじゃん
自分の得意なこと

ドキュウヘンタイ
ド級編隊
エグゼロス
HXEROS

第7話
空の色、星の色

ド級編隊

エグゼロス

HXEROS

まさか人間が
これほどまでに
しぶといとはな…

我々の目的は
忘れてない
でしょうね？
はっ
女王様
地球人が繁殖に
必要とする
Hネルギーの
摂取を阻害し
絶滅させ
この惑星を
侵略すること
であります
その通りよ
地球人は
正面から争うには
数が多すぎる
その為には まず
エグゼロスとかいう
邪魔者を
何とかして頂戴
ご安心下さい
奴らを
まとめて排除する
良い計画が
あります
期待
してるわ

肉欲に塗れた
愚かな
人間共よ…
お前たちの
三大欲求の内の
一つが消滅する
日も近い――

炎城
き…昨日のことだけど…
あの日の私は切羽詰まってたというか…
気が動転してたというか…
ともかくあれは本当の私じゃないから!
わかった!?

……わかったから
少し離れろ
って…
ぽっ
!?
なっ
何考えてんのよ
変態…
まさか あの星乃が
こんなことで
反応するなんて…
なっ!?
それってどう
いう意味よッ!
お前も
じゃねえか
じっ

じーっ
すっ
……?
見つけた
!

理想のHロイン
むにっ
なっ…
♪
なんなのこの子〜〜〜!?

どうやら気に入られちゃったみたいですね星乃さん
あれ…そういう意味だったの…？
それが私達もよく知らなくて…
宙ちゃん…自分のことはあまり話さないから…
コト
星乃さんと炎城さん以外は出会ってまだ数か月ですから
お互いを知るのにまだ時間が必要ですよね

でも
これから皆
仲良くなれば
ここの生活も
楽しくなると
思うんです
私 トロくて
ドジですけど
もっと星乃さんと
仲良くなりたい
なーなんて…
そうよね…
ここでやってくには
他の人のこと
もっと良く
知らないと…
こーら
ルンバちゃんは
自分のを
飲みなさい
ぱしゃっ
あっ
モ〜
モ〜

モフッ
…こらっ…
そんなトコ舐めちゃ——
ペロッ
ペペペペペ
あ…ッ！
あっ〜〜
……とりあえず白雪さんはこういう人……と…

だけど…
私も他人のこと言えないのよね…
悩んでたとは言え…
私も この間――
あ〜もう なんであんなことしちゃったんだろう〜…!!
シャーーーッ

ただいま
はー…
今日はすごい質問攻めだった…
上手く誤魔化せてればいいんだけど…
炎城とも気まずいままだし…
まずは自分でHネルギーをコントロール出来るようにしないと…
ここの誰かにコツか何か聞ければいいんだけど――

って…まだ誰も帰って来てないか…
あっ！
ガサ
ゴソ
モフッ
コラッそんなことしちゃ駄目でしょ！
ガタッ
ぴゅーーっ
バサササ
全くもう…
ん？

こ…これは…！
ガチャ
ジャーッ

み…見た…？
ごめんなさい…覗くつもりはなかったんだけど…
ノートが落ちちゃったから拾おうとしてそれで…
だけど天空寺さんって絵上手いのね
ちょっと意外

まだここの
誰にも見られた
ことなかった
のに——
バレたからには…
雲母ちゃんの恥ずかしい格好を撮って口止めするしか…
ゴゴゴゴ
ゴゴゴ
なっ…なんでそうなるの!?
……だって…知ってるもん…
皆と違って宙のHネルギー源だけ変だって…
分かってるけど…好きだから止められなくて…
気付いたら自分でも描くようになってて…
他の皆にもバレたら絶対笑われる…

そんなことない
!
誰にだって人に言えない趣味や過去を持つこともある…
私にもそういう経験があるから気持ちはよく分かる
だから無理に止める理由なんてどこにもないよ
それに自分で言えるようになるまで誰にも言わないから
約束する…ね…?

わかった…
許したげる

ほっ

その
代わり…

宙の一番
恥ずかしい物を
見たからには…

雲母ちゃんの
恥ずかしい
トコも見せて
もらうから

裸婦デッサンのこと――!?
ま…まさかとは思ったけど頼み事って…
今描いてる漫画のキャラのイメージが雲母ちゃんそっくりなんだけど
やっぱり実物を見ないと上手く描けなくて…
今朝のアレはそういう意味だったのね…

ねぇ
シーツでよく見えないんだけど…
!
だ…大丈夫…
ぱっ
これはデッサン…つまり芸術
何にも恥ずかしがることなんてないんだから…!
わかった…
私の身体で良かったら好きなだけ参考にして
それで…どんなポーズすればいいの…?
ホント?
それじゃあ——

!!?
宙ちゃん…このポーズはなんなのかな…?
ん?
ドジな女の子が滑って胸に縦笛が挟まっちゃうシーンの参考に…
どんな漫画!?
例えば…

ガチャ
ビクーッ
え…炎城!?
もー我慢出来ない…!
俺が隣の部屋に居るっていうのに星乃にそんな格好させて…
本当は誘ってるんだろ…?
バッ
っ…!?
ガ

ドキッ
…
責任…
取って もらうからな
ぷにっ

だけどちょっと意外…

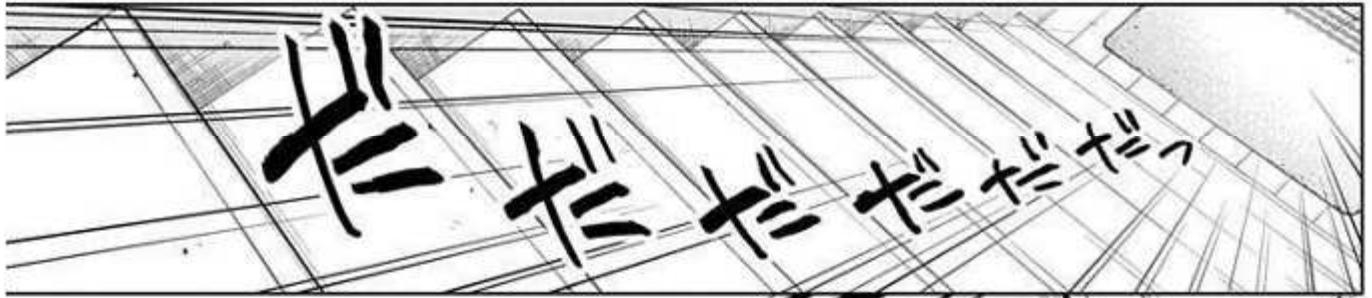
い…言っちゃった…

この子もこんな表情するんだ…

そう思うとちょっとだけ…今日は手伝って良かったかな…

ビービービー
緊急警報発令
市街の本屋にキセイ蟲が出現
なっ…何…!?
隊員は直ちに出動して下さい
だだだだだだっ
行くよ雲母ちゃん
支度して
ギリッ
ばんっ
おいっ聞いたか今のっ！

!
ヒッ…
ゴッ
なに女子の部屋にノックもなしに入って来てんのよ……!!!
わ…悪い…急いでて…
シュウウウ…

天空寺
行けるか？
すくっ
う…
うん！
ワー
ワー
本

ここが如何わしい本を人間共に多く提供しているという店ね
なんでこんな地味な場所が選ばれたかしらないけど
女王様の意志によりキセイする
お行きなさい小蟲達
ぽ
ぽ
ぽっ
キキキキー
ガジガジガジ
ガジガジ
ガジガジガジガジ
ガジガジ
な…なんてことを…！
ただでさえうちは経営難だっていうのに…!!
け…警察〜っ

！
なんなの…
これ…
ここは…
どうした
天空寺…？
宙のお気に入りの本屋
それをこんなふうにするなんて…
許さない…
ギッ!?

キショっ!?
エグゼロス!?
こんなに早い
なんて聞いて
ないわよっ…!
ぐぬ…
キッ!
お前達ッ!
後は任せた
わよ!
だっ
逃げた!?

アイツは俺が追う！
ここは頼んだぞ！
だっ
だから私はまだ無理だって――
大丈夫…
ぱああ
!?
キ
キ
キ
キ
ばばばっ

ボムッ
宙ちゃん…その姿…
これ？

宙の
H×EROS
ペカーッ
Hネルギーを
翼の形に具現化
してるの
そんなことも
出来るんだ…
イメージさえ
しっかり出来れば
これくらい簡単
だけど
これは流石に
ちょっと
多すぎ
かも…！
きゃああ
っ！
!?

ひいいいっ
まだ人が——
ばっ

？？
ててて…
あ…
ありがとう
ございます…
大丈夫
雲母ちゃん
⁉
能力が使え
なくたって
コレくらいは
出来るんだから
今日は
ありがとう
雲母ちゃん
—
ここからは
宙に任せて
その人を連れて
下がってて
さ
こっちへ
はっ…
はい！
今まで
自分の絵なんて
恥ずかしくて
見せたこと
なかったけど…

褒められるのって
こんなに気持ち
よかったんだ…♡

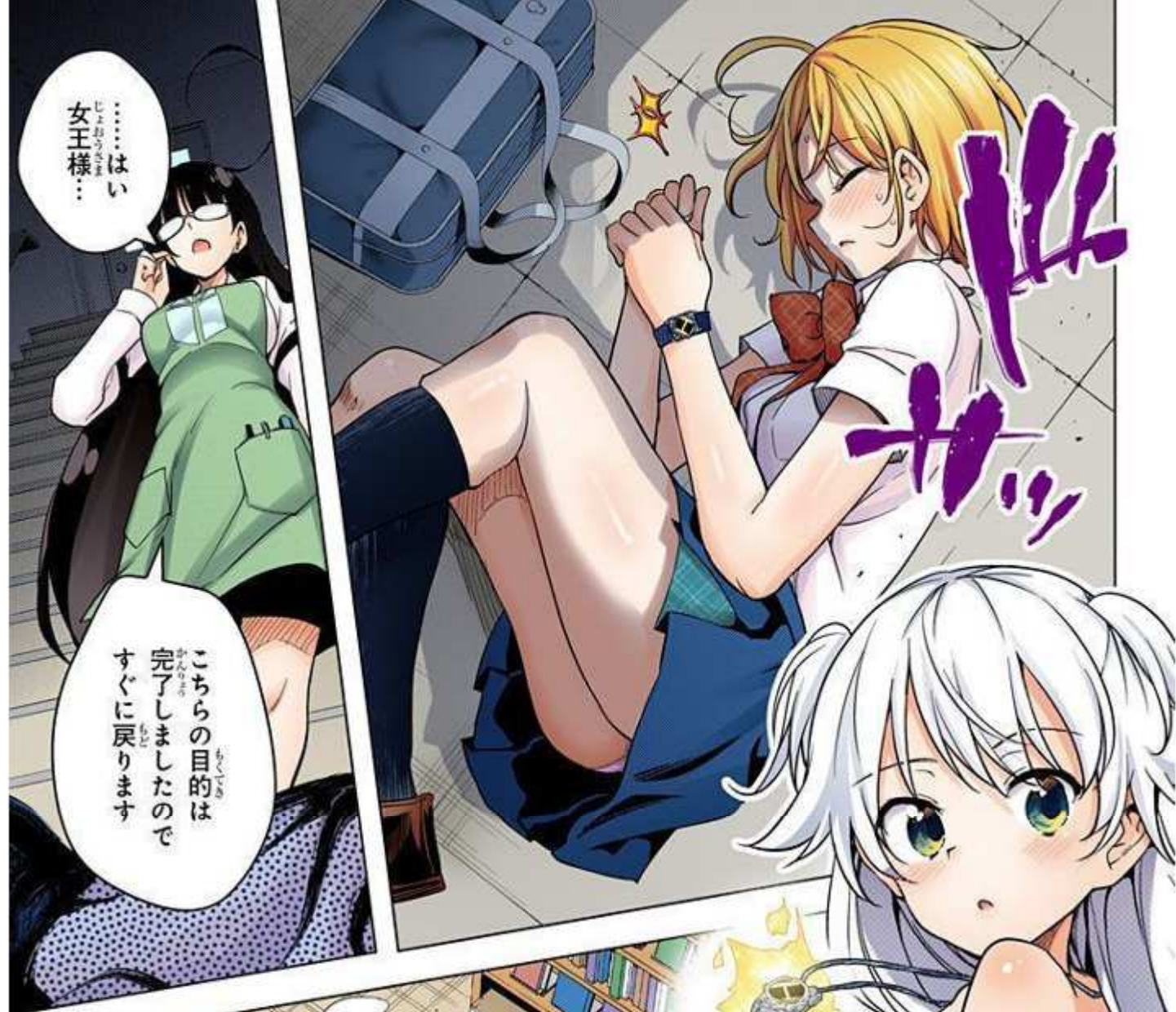
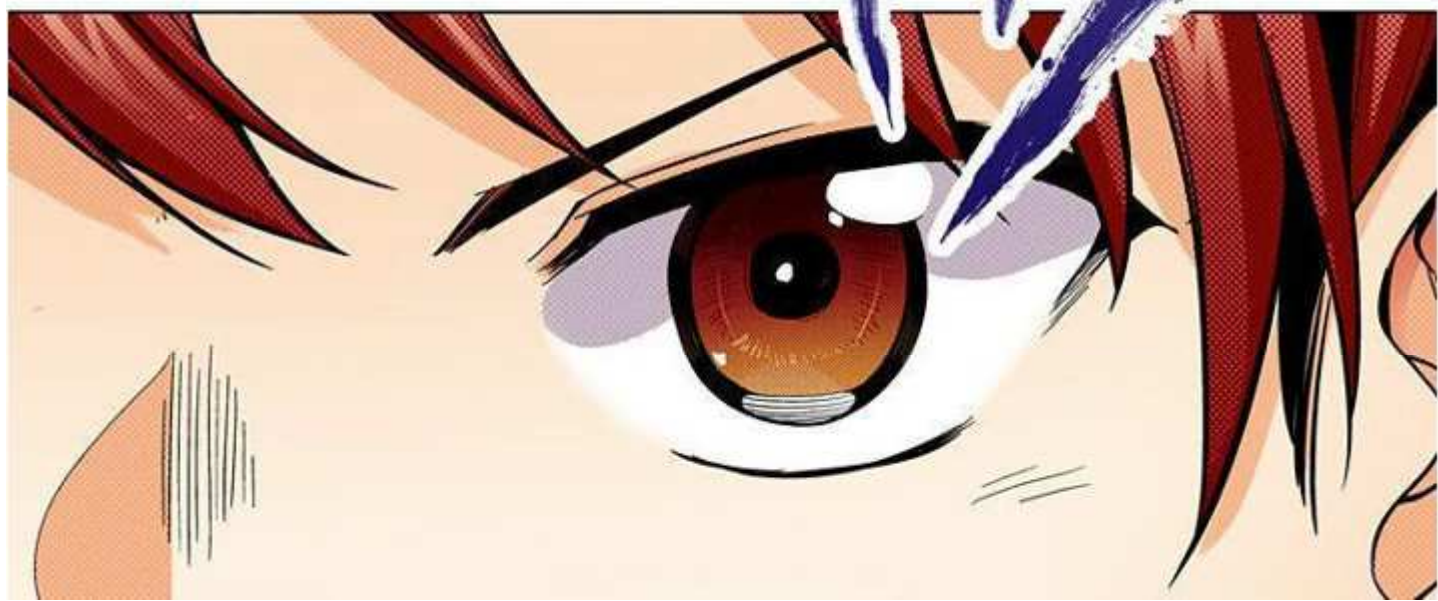
天空の閃光
ソーラー・レイ

すごい
宙ちゃん…！
スッ
ええ
お疲れ様
あ…
プスッ

ドドサッ
……はい
女王様…
こちらの目的は
完了しましたので
すぐに戻ります
終わったよ
雲母ちゃん
………
あれ…
雲母ちゃん
…？
しーん

キオオオオオ
チッ
ドオン
ガチャ
!
そっち（かたづ）も片付いたか？
ぱっ
烈人（れっと）くんっ…!!!
!?
ぎゅむっ

天空寺ッ…!?
お前 着替えは
―
雲母ちゃんが……!
それより
雲母ちゃんが
―

女王様
エグゼロスの中で唯一無害だと思われる人質を無事確保しました
ちゃんと要求は伝えた？
はい
この人間のHネルギーを吸い尽くされたくなければ
仲間を連れてここに来いと…
パ
パンッ
よくやったわ

それでは
迎撃の準備に
入って頂戴
エグゼロスさえ
排除出来れば
計画は次の段階へと
進められる
キセイ
による
人類の
キヨセイ

待ってろ
星乃──

ド級編隊（どきゅうへんたい）

エグゼロス

HXEROS

Extra Gallery

番外ギャラリー

ド級編隊（どきゅうへんたい）

エグゼロス

HXEROS

第8話
ごめんね皆…宙が付いてたのに…
天空寺…お前のせいなんかじゃない
誰もキセイ蟲がこんな手に出てくるなんて思いもしなかったんだ
そうですよ
それに星乃さんが心配なのは皆同じです
ね？百花ちゃん
びくっ
！
せっ…せやな！
どうしたんだ桃園？
いや…何でもあらへんよ…？

ガーン
アカン……!!!
さっき一発 無駄打ちしてもうたせいでこのままじゃ全然闘えへん…!
…せや
なぁ皆
このまま言われた通りに行って簡単に助けられると思うか?
罠かもしれへんし
万全を期して今からでももっとHネルギーを溜めてった方がええんとちゃうか?
……確かに…
でもどうやって……
ウチに任しとき
烈人はそこで待っててな
おっおい
コソコソ

へえぇっ⁉
…本気ですか…⁉
そんなので溜まるなんて百花ちゃんだけだと思う…
なっ 何弱気なこと言ってるんや二人共！
仲間を助ける為に最善を尽くすのが〝HERO〟ってもんやろ！
ぱっ
そっ…それは…
……わかりました…！
私も覚悟を決めます…

ガラ
こんな時に何やってんだ？
どきどきどきどき
あの…炎城さんこれ…
？
ごそごそ
…これ…百花ちゃんが帰って来るまで預けるようにって…
ほくほく
!?

ドヤ 烈人？ ウチらは 見られそうで 烈人は見えそうで Hネルギーが 溜まる
これぞ Win-Winの 関係やろ？
お前 だけな
なーんや… 残念やな 二人共
!?
あとな… 危ない時は ちゃんと 言えよ…？
きゃあっ！
ぴらっ
いっ…いいから 早く行くぞっ！
!
俺で良ければ 盾くらいには なるからさ
炎城さん…
烈人くん…
なーに カッコ つけてんねん
ぱあっ

タマーッ
盾になるとは言ったものの…
この状況は流石に──
たたんっ
たたんっ
第8話
エグゼロス・ライジング

くっ…
あなたも同じ人間でしょ!?
なんでキセイ蟲なんかに協力してるのよ！
あら？
私がいつ自分が人間だなんて言ったかしら…？
ざぞぞぞぞ
!?

中には人間社会に紛れて内側からキセイしてる仲間も居るくらいよ
まぁ…知った所でもう手遅れでしょうけど
擬態と言ってね…キセイ蟲は惑星の生態系に合わせて姿を変えられるの
そんな…
ガコン
私は女王様に直に報告してくるから
しっかり見張ってなさい
わかりました
ともかくどうにか脱出しないと…！

こんな時にH×EROSが使えてれば…
もじもじ
！そうだ…
ねぇそこのあなた…
あなた達は私にHネルギーが溜まると困るんでしょ…？
はーっ はーっ
私 縛られてるとドンドン溜まってきちゃうんだけど…
このままで良いのかしら？

ちっ…コレだから人間って奴は世話が焼ける…
解くけど妙な真似するんじゃないわよ？
ブッ
ええいッ！
キョ!?
はあっ…はあっ…
全く なんて真似させるのよ…！
ドサッ
とにかくどこかに隠れないと…

んん～～～ッ
はぁ…はぁ…良かった…
誰も居ないみたい…
……人間…？
くんくん
はぁっ…これからどうしよう…
人間なのだ～～～っ♪
モフモフッ
はー ホントに柔らかいのだー♡

ご…ごめんなさいなのだ…!

ぽっ

人間を生で見るのは初めてでつい…

あなた…一体なんなの……!?

キセイ蟲の仲間!?

何…この反応…

本当にキセイ蟲…?

ボクは〝チャチャ〟
もさっ
ただ…ボクは千年に一度生まれるとされる忌み子…
女王様の第一子…つまりは ここの王女様なのだ！
生まれて此の方ずっとここに閉じ込められているから
仲間かというと少し違うのだ
閉じ込められてるって…
あなた達同じキセイ蟲じゃないの…？
残念ながら向こうはそう思ってないようなのだ…
この通りボクは一族の突然変異…
閉じ込められてるのは多分…同胞とは真逆の体質だからなのだ…

あの…
アナタを良い人間の雌君と見込んでお願いがあるのだ…！
キララです…！
ではキララ
ボクをここから出してくれないだろうか？
この惑星は面白い！
支配種の交配が他の種族よりもこんなに複雑なのに栄えるなんて聞いたことないのだ!!
特にこの国の「ひるどら」とかいう番組がお気に入りなのだ!!!
へ…へぇ…詳しいのね…
知っているかもしれないのだが同胞は人間を滅ぼそうとしている…
ボクはなんとしてもそれを阻止したいのだ

同胞のことを許してくれとは言わないけれど
どうか協力して欲しいのだ…！
わかったわ…だけどここから脱出したいのは私も一緒…
一緒に策を考えましょう
ププ
なるほど…
ということはキララにHネルギーが溜まればすごい力が出せるようになるのだ？
そ…そういうことになるわね…
それならボクに任せるのだ…♥

ボクは他の同胞と真逆の体質の突然変異なのだと
言ったのだ?
ボクは他の種族がHネルギーを感じやすくなるフェロモンを放出出来るのだ
ぱっ…
…ぱぁっ…
ぽーっ
ふわ
なにこれ
……!?
だからHネルギーの補充
ボクが手伝うのだ♡
凄すぎッー
ぞくっ
ぞくっ

ブロロロロロロ……
H×EROSによるとこの近くみたいだな…
大丈夫か……？
うん なんとか…
ここか

で どうやって攻める…？
そりゃあもう正面突破しかないやろな
ですね
うん 折角Hネルギー溜めたんだし…
うず!うず! うず!うず! うず!うず! うず!

烈人は先に雲母の所へ

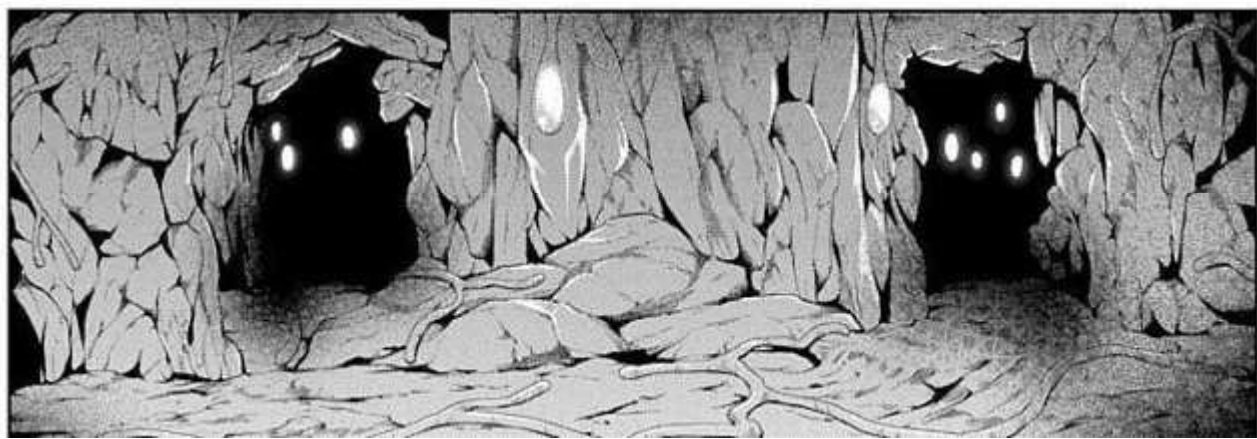
ウチら女子は少し暴れてから向かうわ

なんで別行動で…

言わせないで下さいっ！

そっそういや戦闘は男女別って決めてたな…！

絶対全員一緒に家に帰るぞ

でもまさか貴女が人間如きに気絶させられるなんてねー
少し油断しただけよ
う…五月蝿いわね…！
パッ
ん？
ラマーズ砲
ぼっ
天空の閃光
!?

奴ら…っ
本当に来やがった…！
全員 今すぐここに──
どーーん
さーて
宙舞姫
ウチらの大切な
友達に手を出し
たらどうなるか

キセイ蟲共に教えてやらへんとな…
待ってろ星乃…！

はあっ
はあッ…
びくん
ビクン
もう駄目…
うくん…
全く反応しないのだ
ええ〜〜…っ!?
はっ
はっ
キララよ
お主ちゃんと想像したのだ?
想像って何を…?
子種のことなのだ
ブッ

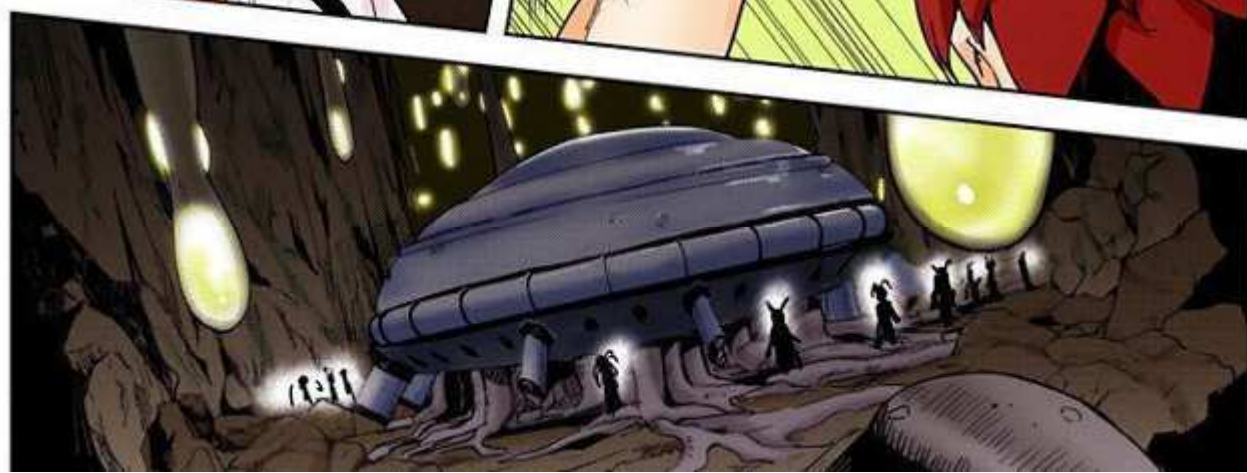
ななな何言ってるのよ
ばっかじゃないの!?

…なぜなのだ?

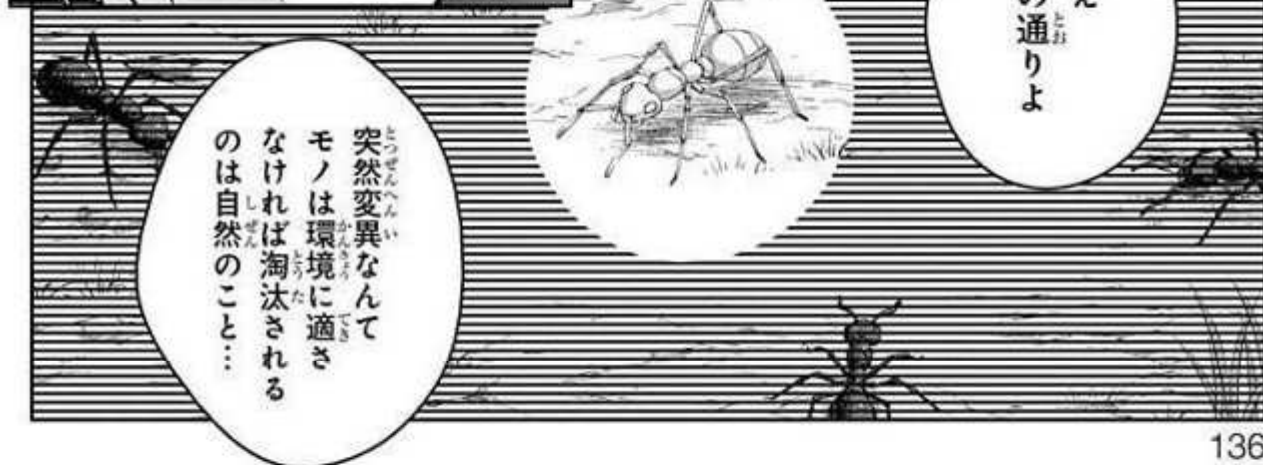
人間は有性生殖なのだろう?

生存本能に何を恥じることがある

もう少し自分に素直になるのだキララ

あのね…人間には恥じらいって感情があんの

エグゼロスは
入り口方面よ！
……！
早く行きなさいっ！
今のって…
どうしたのだ？
まさか
皆が…
来てくれた……!?
チャチャ！
私達…ここから
出られるかも
しれない…！
がしっ
ホントに
ここから
出られるのだ…!?
ホントか
…!?

それは無理ね
どうりで見つからないと思ったら…
こんな所に隠れてたのね…
人質の出番よっ来なさい！
いやっ…！放してッ
ヤメロっ！
キララから手を離すのだ！

のだッ
これはこれは王女様
けほっ
まさか人間に手を貸すおつもりではないでしょうね…？
…だったら何なのだ…⁉
最初からボクを仲間だなんて思ってないくせに…！
ええその通りよ
突然変異なんてモノは環境に適さなければ淘汰されるのは自然のこと…

女王第一子という
お情けで生かされ
てるということを
お忘れなく 王女様
ま…
待ってて
チャチャ…！
きっと…
助けに来る
から――
ガチャンッ
ギギギギッ
ここが…
そこまでよ
!?

大人しく投降なさい
さもないとここに居る同志全員で
この雌が生きる気力が無くなるまでHネルギーを吸い尽くすことになるわ
星乃ッ!?
や…やれるもんならやってみなさい…
私はそんなものに屈しないんだから…!
キショショっ!真っ赤じゃない
もしかして体験済みなのかしら…?
かわいそうに…二度もこんな目に遭うなんて

わかった……
これが俺達の力の源…H×EROSだ
これがないとキセイ蟲と闘えない
これを外すから
カチャ…
星乃には手を出すな…
何言ってんのよ…
あんた こいつらが許せないって言ってたじゃない…
あぁ…
だけど同じくらい あの日星乃を守れなかった自分自身も許せなかった…
だからもう あんな思いはしてほしくないんだ…

炎城…
それに今でも後悔してるんだ…
なんであの時この一言を言ってやれなかったんだろうって…
Hネルギーが多いからって恥ずかしがることねーよ…
…いや…
むしろアリだと思う
なっ何こんな時にふざけたこと言ってんのよ！
………
ふざけてなんかない…！俺は本気で──

だから早く
そんなやつぶっ飛ばしてやれ
もう少し自分に素直になるのだ
自分に…素直に…
私だってそんな頃もあったのに…
なんで忘れてたんだろう…

ひゃあああ〜〜〜っ
ぱしゃっ
あーもー
びしょびしょ…
この調子だと
今年の七夕祭りは
中止かなー
えぇ〜〜〜…
せっかくおめかし
してきたのに…
ザァアアアアア
伊達と朝奈には
悪いけど
止むまで雨宿り
すっか…
……………
……

ねぇ れっくん "サマーバレンタインデー"って知ってる?
七夕の今日もバレンタインデーと同じで女子が好きな男子にお菓子をあげる日なんだって
へ…へー そうだったんだー 知らなかったなー…
それはそうと ちょっと小腹が空いたかもなー なんて…
あれー 何 その反応ー?
欲しいなら そう言えば いいのに
ニヤ ニヤ
はい欲しいです
っ!

てへっ
ゴメン☆
持ってくるの
忘れちゃった
何その
あからさまに
残念そうな顔
べ…別に…
そんな文化
まだ日本に定着
してないし 悔しく
なんてねーよ…
またまた
強がっちゃ
ってー
………
それじゃあ
もし雨が
上がったら

どん
お祭りで買ってあげてもいいけど…？
あ
お祭り…あるかもね
好きな人と両思いになれますように

彼氏作って
放課後は
デートしたり

休日は家で
二人っきりで
過ごしたり

もっともっと
充実した毎日を
送るはずだった
のに…！

いつかは
告白…
出来たかも
しれないのに
――
キショ？
ドゴッ

ゴゴゴッゴ

キショオオッ
オキオオォ
ズ!!ズ!!
ン!!!
なんや今のHネルギーは……!?
もしかして…
雲母ちゃん……?

ふらっ
ぱっ
星乃っ…!!
大丈夫か!!?
あはは…力抜けちゃった…
ありがとうれっくん…
それで…
一つ…頼みがあるんだけど…
……！
!?

あいつなら大丈夫

ガラガラ

キララ…上手くやったようなのだ…

これでボクにも…

生まれた甲斐があったというものなのだ…

バババッ!!!
!!!
星乃から話は全部聞いた
一緒に行くぞ!
チャチャ

ガラガラッ
ズウゥゥゥン
炎城(えんじょう)～～！
炎城(えんじょう)さ～ん！
烈人く～ん

……どうしよう…
全部私の所為だ…
大丈夫きっと烈人は無事や
それに雲母のお陰でキセイ蟲を一網打尽に出来たんやから元気出しいや
ついに私達…
キセイ蟲に勝ったんですね…！
だ…誰かッッッ…！
この声…！
炎城っ!?
ガサッ

ほー コレが人間のオスというものか…
こっちはメスと違って固いのだ…♪
はらりっ
はぁッ…!?
!!!!????

お主たち…さっき キセイ蟲に勝ったとか言ってたのだが
巣を壊しても母上を倒さなければ無意味なのだ
ただ我々を倒せる人間が居たとは気に入った
プシューーッ
だから──
今日からボクがお前たちのHネルギーを鍛え直してやるのだ♡
エグゼロスのメンバー
現在人間5名
そんなことよりなんで私に擬態してるのよ〜〜〜〜!!
のよ〜のよ〜のよ〜
+キセイ蟲1体──

ド級編隊エグゼロス

HXEROS

Extra Gallery

番外ギャラリー

どきゅうへんたい
ド級編隊

エグゼロス

HXEROS

第9話
新たな同居人(?)

……起きた？
やっと…
一緒になれたね…
さてと…そろそろ起きなくちゃ…
むくっ
なぁに～
また我慢出来なくなっちゃったの…？

もう…しょうがないなぁ…
ズシ
ズシ
こんなことさせるの…
あんただけなんだから…
っ…
ちょっ…がっつき過ぎ…！
キュッ
やッ…ちはっとどこ触って——
ぐにゅっ
ビクッ
ビクッ
〜〜〜〜ッ

やっぱ無理〜〜〜ッ!!!
ガバッ
急にどうしたのだ キララ!?
※チャチャ（擬態中）
別にこんなことの練習なんて頼んでないし…
そもそも私にはまだ早いから…！
チラッ
？
じーーっ
なぜなのだ？
途中まではノリノリだったのに…
そんなことないからっ！
っていうか…

ここでは人に
擬態するのは
禁止って言った
でしょ！
しゅんしゅん
言われた通り
ルンバちゃんに
擬態しなさい！
あー
そう言えば
そうだったのだ
そもそも
こんなこと
しなくたって
キセイ蟲をやっつけたなら
もうHネルギーなんて
溜めなくていいじゃない
前にも
言ったのだ
母上を倒さない
限り キセイ蟲の
活動が止まる
ことはないと
それに
キララが
言ったのだ
ボクが
必要だって
そりゃあ
確かに…
昨日は
ああ言ったけどさ…

前日──
地球防衛隊
サイタマ支部
──
いやぁ
良かった
君たち…
心配
してたんだよ
ホントに
ごめん
叔父さん…
やっぱ連絡
すべきだった
よな…
あの時は星乃を
助けに行くことしか
頭になくて…
いやいや…
むしろ無事で
よかった
それにしても
まさか
雲母くんが──
BANANA

二人になって帰ってくるなんてね
でもホントに彼女がキセイ蟲なのかい…？
コスプレした双子のギャルじゃなくて？
……
……見せてあげてチャチャ
かしこまったのだ！

ストトッ
おお…！
わそこんっ
ま…まさかとは思ったけど…
じろ
じろ
どうやら本物みたいだね…
どれどれ細部の方はどれくらい…
ペローン
ゴッ
エロオヤジこらアッ！
冗談冗談…ともかくこれは対キセイ蟲にとって重要な第一歩だ
まずは研究材料として隔離して検査しないと…
！

あのっ…！
私は ただ…この娘に外の世界を見せてあげたかっただけで…
お願いです…隔離とかそういうのは無しにしてもらえませんか…？
星乃さん…
雲母…
そう言われてもなぁ…いくら友好的だからってキセイ蟲を野放しにしておくのは危険すぎるし…
あっ後一つ言い忘れてたんですけど…
チャチャの体質はキセイ蟲と全くの正反対で
だから私達と居れば今までよりもっとすごいHネルギーが溜まるようになるかも——
その通りなのだっ…！
はっ!?
BANANA

びたーん
のだっ！
ずるっ
たたたのた…
！
いやあああああああああっ
なんや烈人みたいやっちゃな…
どこがだよ…
TOUCH ME

ブラボーブラボー
プラシーボ！
パキパキ
まさか あの雲母くんが
心を入れ替えて
こんなに身体を張って
訴えてくれるなんて…
おじさん
感動したよ！
確かに君達と
一緒に居るのが
一番安全かも
しれないいね…
今日の所は
連れて帰り
なさい
ぱあっ
その代わり
さっきの
Hネルギーの話
よろしく
頼むよ
任せる
のだ！
大丈夫
かなぁ…

全く　キララは
恥ずかしがり屋
なのだ…

ボクは早く
この能力を
役立てたい
のに…

もう…

前みたいに
不要扱い
されるのは
嫌なのだ…

ガチャッ

ん？

おはよう
チャチャ

よく眠れた
か？

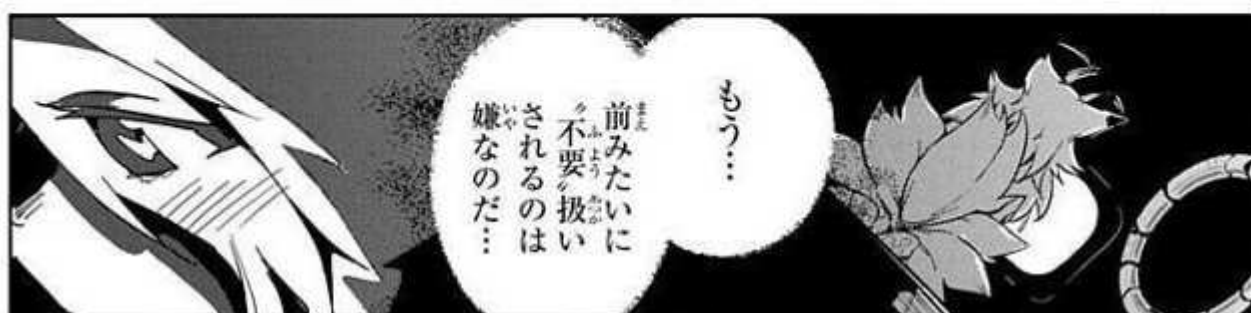
俺なんて昨日の
疲れで まだ
くたくた
だよ…

今日が日曜で
ホントよかった

そう言えば
ボク…

昨日この人間に
助けられたの
だっけ…

よし…今度は…
ボクがこの雄殿の
お手伝いを
するのだ！
レットと
言ったかな
…？
一つ
聞きたいことが
あるのだ…
ズバリお主の
Hネルギー源は
何なのだ？
へっ？
そっ…それは
考えたことも
なかったな…
いつも気付いたら
溜まってるって
感じかな…
ははは…
ふーん…
それじゃあ
ボクが代わりに
見つけて
あげるのだ
!?

シュウウウウ ウウウウ……
…一体…
何が起こったんだ…？
…なんだか視線がめっちゃ低いような…
!!??
ドーーン

ボクが擬態するとキラララに怒られるから
レットの感覚をボクに合体させたのだ
はぁ!?
触手に変身させたり擬態したり合体したり…
なんでもありかこいつら…!
っていうかあれ…?
声が出せないし…身体も動かせないんだけど…
それな
人間は恥ずかしがると感情とは別の行動を取ってしまうようだから
ボクが直々に探ってやるのだ
さあレットのHネルギーの源を探りに出発なのだ――!
だっ
ええ〜〜〜っ!?

ガチャ
さて…まずはこの部屋から
はぁ…
この雌君の名前は何なのだ？
名前は白雪舞姫
ここのメンバーにしては一番おとなしくて大人な奴だよ
はら？
あの…
ひぃっ キセイ蟲さん!?
な…何の用ですか…？
ビクッ
なんだかとても警戒されてるようなのだ…

それに白雪はキセイ蟲が苦手だからな
早く諦めて元に戻せ
……
にゃーん♪
そんなのが通用する訳…
ややや
や～ん かわいい～♡
白雪の奴…いつもと全然キャラ違うじゃねーか…！
ぎゅっ
なぁに？お姉さんと一緒に遊びたいの～？♡
むぎゅっ♡
っていうか身体が動かせなくても五感が繋がってる分──

まるで俺が白雪に抱かれてるような…
はッ!?
ヤバいヤバい…！
こんなことでHネルギーを感じる所だったぜ…
恐るべき白雪…！
なるほど…
これじゃあ全然物足りないと言うのだ？
それじゃあ—
!?

わふわふ
もうっ…
…まるでルンバちゃんみたい…
プルッ
あっ
あの…
そんなにじっと見られると恥ずかしいんですけど…
ドキ
ドキ
お…おいチャチャ…
俺の身体で何をする気だ…!?
やめっ…

!
ぱっ
…何…
今の…？
ペロッ
はあんっ
ルンバちゃんの
時とは全然
違う…
やっぱり
星乃さんの
言った通り…
チャチャちゃんの
能力は本物だったん
ですね…!!♡

はーっ♡
はーっ…♡
ビクンッ
ビクンッ
しまったのだ…
レットのHネルギーを探るはずが
ヒメメのHネルギーを刺激してしまったみたいだのだ…
舌に…舌に白雪の胸の感触が…
しかし人間って不思議な生き物なのだな
生殖とは無関係な行為で発情出来る生物など今まで見たことがないのだ
仕方ない…次の部屋に行くのだ
まだ続ける気かよ…！

なんや？
一緒に遊んで欲しい？
のだ！
すまへんな
ウチ 今美容ストレッチで忙しいねん
ならボクが手伝うのだ！
おいおい…趣旨違くなってないか…？
ストレッチ
せやなぁ…
ピコーン

そんじゃ折角やし手伝ってもらおっかな
ただし…
一つ条件があるんやけど…
これで良いのだ?
ええやん!

一度でいいからナイスバディの自分が見てみたかったんやー

ホンマおおきになー

悲しすぎるぞ桃園…！

スリ

スリ

美容ストレッチ特集

あーそこええ感じや…!!
もう疲れたのだ?…
女の身体で女子をマッサージするなんて…
なんか変な感じだ…
しかも…
やたらと無防備だし…
んっ…♡
はぁッ…はぁ…ッ
なんだか身体が熱くなってきてもうた…
おいチャチャなんか桃園の奴変だぞ…!?
今回はまだ何もしてないのだ…?
あ

多分汗が付いた所為なのだ…
汗にも同じ効果が!?
そういえば…
もっといい記事を見つけたんや
ここも押してくれへんか？
バストアップのツボ…♡
ドキ
ドキ
天渓
膻中
乳根
ゴク…

効くッ〜〜〜♡

はーっ…
はーっ…

も…もう十分だろチャチャ…
早く俺を元に戻してくれ…！

いや…そんなHネルギーじゃまだ十分とは言えないのだ…
それに…

ボクもなんだか楽しくなってきたのだ…！

おい

ばあんっ
ボクと遊ぼうなのだソララ!!
うわあっ!?
ノ…ノックくらいして…!
ささっ
ん? 今何か隠したのだ?
何も隠してないっ…
いーや何か後ろに隠したのだ
だから隠してないってば…!
おいっ止めとけって…天空寺も嫌がってるだろ…!
あっ!

アーン♥
カァッ
なんでぇ〜〜〜ッ!!!♡

ヒメメにモモカソラララ…
しかし肝心のキララが見当たらないのだ…
……わかったよ…
全部白状する…
だからもうこんなことはよしてくれ…
!
さっきはHネルギーなんて興味がないフリをしたけど
ガッ
俺は本当は星乃のことが―

好──
キララ
こんな所で裸で
何をしてるのだ？
お風呂だけど…
地球のテレビが
見れてたんなら
知ってるでしょ？
ほー
ここが！
なんなら
一緒に入る？
へ？

あ〜〜っ
一度でいいからこうしてみたかったのだ〜♪
もう…
もとに戻るのもいいけど ここの人以外に見られないようにね？
まさか…チャチャの身体でとはいえ
あの星乃とまた一緒に風呂に入ることになるなんて…
あ

おいチャチャっ早く風呂から出ろッ！
あー？どうしたのだ？
汗が触れるのもマズいのに一緒に風呂なんかに入ったら…
星乃っ!?
ハァッ
ハァッ
私…もうそろそろ上がらない…と…
ザパァ
バイーンッ

チャンスなのだ
!?
お主はキララが好きなのだ?
やっぱ聞こえてたのか…
ここで今朝の続きをすればレットとキララ両方のHネルギーが溜まって…
ズズズ
一石二鳥なのだ
おい…何する気だ…!?
やっ…やめ──

あれ…？
そこに
居るの…
れっくん
……？

やっ…
やっぱり無理だッ…
やっぱり俺…星乃とこういうことは…
ちゃんと自分の力だけでやり遂げたい…
俺のこいつへの気持ちは
Hネルギー目当てじゃないんだから
ガッ

も…戻った…！
ぽぽっ
この雄殿…
強制的にボクとの擬態を解くなんて…
なんという固い決意と強いHネルギーなのだ…！

!?
なるほど…
あんたもチャチャと
グルだったのね…
ええそうよ…
昨日のお陰で
きちんと使い
こなせるように
なったみたい
ほ…星乃…
これには深い
訳が…
ていうか
・・ソレッ…!?

だから覚悟(かくご)してね？

ギァアアアアアアアアッ

ズドーン

どうやらコッチがキセイ蟲の巣の破壊と捕虜の確保に成功したらしく
暫くはキセイ蟲の侵攻は食い止められそうです
やっぱり頭の固い〝トーキョー支部〟は
いえ…それはまだ確認出来ていません
はい…
…はい…
では失礼します
うーん…
まいったな……

キセイ蟲を仲間にするなんて許さないか…
ド級編隊エグゼロス②(完)

ド級編隊エグゼロス セミカラー版
2巻

きただりょうま

初版発行　　　　2017年
デジタル版発行　2018年

発行所　集英社
http://www.shueisha.co.jp

この作品は、著者カラー原画に加え、著者の原画をもとに集英社で一部デジタル彩色を行った特別編集版です。

背表紙・カバー折り返し

※表記はコミックス発売当時のものになります。

本体・表紙

※表記はコミックス発売当時のものになります。

本体・裏表紙

※表記はコミックス発売当時のものになります。